

## ケイ素とは・・・？

### 美容と健康のための必須ミネラル！！

地球上では酸素に次いで2番目に多い元素で、自然界では土や岩などに含まれる鉱物（ミネラル）の一種です。

ケイ素が1番多く含まれている鉱物が石英で、その中でも純度99%以上に成長したものが水晶です。

ケイ素は人間の体を組織している成分で、**ケイ素が不足すると病気や老化の原因**になると発表もされている、**人体を構成する必須栄養素**です。

現代人の健康に関わる問題を解決し、多くの難病を克服する可能性を秘めているとされ、すでに**日本各地の医療機関で使用**され始めています。

ケイ素はヒトの体内では生成されることがなく、身体の外から摂取するしかありません。また、**加齢とともに減少**してしまうため、常に補給を続けることも必要です。



## ケイ素の安全性

ケイ素の安全性については、厚生労働省が定める食品衛生法によって

「人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるもの」として法的に安全性が認められています。

○厚生労働省告示第四百九十八号

食品衛生法（昭和二十二年法律第二百三十三号）第十一条第三項の規定に基づき、食品衛生法第十一条第三項の規定により人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質を次のように定め、平成十八年五月二十九日から適用する。

平成十七年十一月二十九日

厚生労働大臣 川崎二郎

大学を始めとした数多くの医療機関でもケイ素については研究開発が行われ、多くの安全試験においても問題がなく**安全性や遺伝毒性がないことも確認されています。もちろん一般利用者からの健康被害の報告はありません！！**

ケイ素はもともと体内にある成分ですので、余分なケイ素は尿中にまざり体外へ排出されるので、**副作用もありません。**

## ケイ素の副作用

多くの健康食品に共通しているのは、栄養成分の体内動態が明確でない商品が多いという点ですが、栄養成分であるケイ素は、体内でどのように吸収され、排出させるかがハッキリとした安全性の高い成分です。。

ケイ素を口から摂取すると、腸管から吸収され血液中に溶け出します。

血液に溶け出したケイ素は全身の細胞に送り出され、必要なところに効果を発揮します。

ケイ素は必要な分は**体内で使われ余った分は、3～9時間かけ尿から排泄**されます。

体内動態がハッキリしている成分であり、安全試験においても副作用がないと確認されています。もちろん口から摂取した時だけではなく、**皮膚に塗っても副作用がないことも確認されています。**



## 先進国では常識

ヨーロッパでは**ケイ素は必須栄養素**としてかなり前から認知され、特に世界でも**トップクラスの医学の国ドイツでは、一家に1つの栄養剤(=ケイ素)**となっています。

ドイツでは、サプリメントというものの意味合いが日本とはまるで違い、

**世界で最も厳しい基準「レホルム基準」(=エビデンス科学的根拠がある)**があり、「医療に準ずるもの」「栄養として必要不可欠なもの」で**サプリメントといっても効果が不確かなものではありません。**

西洋医学、現代医学がすべてではなく、必ずしも薬である必要はない。栄養レベルで何とかなるなら必要な栄養素を摂る事が一般的になっています。

倹約家なドイツ人が、お金を出しケイ素を摂取し続けているのは、体に害がなくさらに効果があるという確たる証拠です。



## ケイ素不足！！

ケイ素は若い頃には十分に体内に備えられていますが、**加齢とともに大幅に減っていきます。**

体内で生成することが出来ないケイ素は、主に野菜を通して身体の中に取り入れられていますが、**昨今は農薬の使用により野菜に含まれるケイ素量も減っていますので、普段から意識していないと十分なケイ素を摂取するのは難しいでしょう。**

ケイ素は体の組織をつなげるための**コラーゲンの力をサポート**するような物質ですので、ケイ素が不足すると組織をつなげる力が弱くなるということです。

動物実験では、ケイ素が欠乏した状態が続くと、皮膚粘膜・脚部の蒼白、関節の形成不全、骨皮質の異常など、さまざまな成長障害などの問題が生じることがわかっています。

科学的な実験が繰り返され、ケイ素の重要性が解明されるようになり、**人間にとってもケイ素は必要不可欠な栄養素！！**であることがわかっています。

人間の体においてケイ素不足が続くと、次のようなトラブルが起きやすいことがわかっています。

- ・骨粗しょう症の進行、骨粗しょう症からくる骨折
- ・爪が割れる
- ・切れ毛、白髪、薄毛
- ・老化の進行による難、しみ
- ・片頭痛
- ・静脈癌、動脈硬化
- ・E D
- ・認知症の進行、悪化 など



ケイ素は全身の組織、臓器の材料なので、**ケイ素不足は多種多様の健康問題・老化の原因**になってしまいます。

逆に考えれば、**ケイ素を意識して摂取**することで、トラブルを未然に防ぎ、病気回避、健康回復、アンチエイジング効果が得られるという事です。

美容と健康の為に、努力しても効果がなかった方は、ケイ素不足により根本体内組織の力が弱いために、無駄な対処をされているのかもしれない。



## ケイ素の働き

ケイ素の働きについて、2つの効果があります。

- 全身の組織、臓器の細胞の材料になること
- 強い抗酸化力で活性酸素の害を除去すること

この2つの働きはさらにいくつかに分かれ、多彩な働きをします。

ケイ素が体の構成成分であるということは、体内に入った時に傷ついた細胞を修復し、新しい細胞を作る材料になり、**血管の傷を修復して再生させ、しなやかで丈夫な血管の材料**になります。

胸腺(=免疫機能を司る臓器)は加齢と共に衰えますが、**ケイ素が胸腺の再生、新たな免疫細胞の生産を助け重要な免疫組織である腸管の材料**にもなります。

また強い抗酸化力は細菌の繁殖を抑えるため、**殺菌力、静菌力、浄化力**につながり、結果として**免疫力の向上**をもたらします。

活性酸素による**傷や炎症を抑える消炎性、傷を治す材料**になることから**細胞活性**もあります。

ケイ素は「〇〇に効く」ではなく、体のどの臓器・組織にとっても重要な成分ですので、**「摂取する人が最も必要とする部分に効く！！」**

ケイ素は、直接血液を増やしたり、がん細胞を叩いたり、病原菌を殺したり、脂肪を減らしたりすることはできません。その代わりに、血液を作る材料になり、血管を修復し、胸腺や腸を構成して活性化し、免疫細胞を増やし、働きを強化し、代謝を司る脳細胞の材料になるなど**後方支援**が中心です。

## ケイ素の効果

### 【ダイエット効果】



ケイ素は体内に入ると、その優れた浸透力によって毛細血管に入り、血管内に蓄積された脂肪分を分解し、尿と一緒に排出するのを促します。

このとき、尿に油分が浮く場合がありますが、これはケイ素が体内の脂肪分を均一に乳化した結果です。

腸内に溜まった老廃物を一掃し腸内環境を改善するので、便秘の症状が改善されます。そして、セルライト状態の肥満の場合、血行や代謝が改善され、デトックス効果も見られるようになり、結果ダイエットに繋がります。

さらに、ケイ素は脂肪燃焼の火付け役にもなってくれます。

血液の温度を上昇させるケイ素の効果なのですが、これにより冷え症が改善されます。

このように、ケイ素にはデトックス効果もありますが、セルライトが出来ることも阻害する効果もあるので、ダイエットの結果が現れやすくなります。

ケイ素は他のミネラル分の結合組織への吸収を促す働きがあるので、日々摂取することにより、他のミネラル分の吸収率もアップするうえ、自然にダイエットが出来るのです。



## ケイ素の効果

### 【アンチエイジング効果～シミ・しわ予防・改善～】



体内に含まれるケイ素はコラーゲンの再生と接着の役割を果たし、肌に弾力を与えて潤い成分であるヒアルロン酸やコラーゲンを結びつけて肌を丈夫にしてくれる働きがあります。

そして、細胞間の隙間を埋める役割もあるので、保湿をしてくれ乾燥を防いでくれるのです。

ケイ素が不足すると、コラーゲンなどを支える接着剤がなくなるので、肌の弾力が失われ、乾燥しやすくなり、しわの原因になります。

また、乾燥した肌は潤いがなくなるので、角質層が固くなり、古い細胞が肌の表面に留まりやすくなります。更に、角質層が乱れることによって、角質と角質の間に隙間が出来て、肌の水分が蒸発しやすくなり、また乾燥してしまうという悪循環に落ちいります。

たるみの原因はコラーゲンの減少による肌の弾力の低下です。「湿度の低下」「気温の低下」「紫外線」「加齢」などの理由で肌が乾燥すると、肌の表面の保湿力や抵抗力が低下して、ターンオーバーが乱れ、肌のハリが失われます。一見、しみ、しわ、たるみは別の要因があると思われがちですが、どれも「**コラーゲンの減少と乾燥、ターンオーバーの乱れ**」が原因となっています。

効果的にケイ素を取り入れて、予防するには下記2つの摂取方法を同時に行うのが最も良い方法です。

#### ●ケイ素を直接体内に取り込む

#### ●直接肌につける

浸透力や静菌性・洗浄力の高い特性を持つ水溶性ケイ素は、コラーゲンを作ると同時に新しく細胞が生まれ変わるための**新陳代謝を促進する作用**を持っています。

体の内側、外側から肌に働きかけることにより、肌の細胞を活性化してくれますし、気になるシミやしわへケイ素を塗るところにより、その成分が外から浸透して効果を高めてくれるのです。

ケイ素は珪素のまま全身の細胞に届けられ、**必要な箇所**で骨や皮膚の再生を助けます。

### 【アトピーの改善】

ケイ素は、細胞の結びつきを補助するコラーゲンの生成を助けるため、**アトピー性皮膚炎**で炎症をおこしてしまった箇所の**修復を早め、全身の細胞を活発にし、人体が持っている本来の治癒力を戻す**ことが出来ます。

自然治癒力を高めることで、炎症部分を抑え、悪化を防ぐことが出来るようになります。

アトピー性皮膚炎の場合は、皮膚の免疫力低下、もしくはアレルギーによる過剰反応を発生させ、結果的に人体に対して炎症や慢性的な痒みを引き起こします。

ケイ素を摂取により、体内の活性酸素を取り除くことで、免疫力自体が低下していたり、アレルギーに対して過剰反応を起こしたりする部分に対して、**免疫系機能を改善**することが出来ます。

さらに、デトックス効果もありますので、アトピー性皮膚炎の原因になっていた**体内の有害物質を体外に排出**することで改善することが出来るのです。



# ケイ素の効果

## 【妊婦への効果】

お腹の中にいる赤ちゃんのためにも、これから出産するママの自身の健康のためにも毎日バランスのよい栄養をとることが大切です。

しかし、食事だけでは全ての栄養を取ることは難しく、さらに妊娠による体調・好みの変化などの問題もあります。

お腹の赤ちゃんの事を考えて**天然成分が良いのと、ママにとっても良いもの**を摂りたい所です。

ケイ素は、もともと私達の身体の土台を作っている栄養素ですので、安心・安全に十分な栄養を補うことが出来るのです。

私達の身体の、あらゆる組織、臓器にはケイ素が含まれていて細胞を構成しています。そして、ケイ素を摂取することにより、下記のような効果があります。

- ・**骨を強くする** 良い骨を作るためのコラーゲンとアミノ酸やカルシウムをうまく接着させる
- ・**腸内環境の改善** 腸内の善玉菌を増殖させ、便秘の解消
- ・**デトックス** 排泄しにくい毒（アルミニウムなど）を排泄
- ・**活性酸素の除去** 抗酸化作用があるので、体内の活性酸素を除去してくれる
- ・**血管を強くする** 血管の傷を修復、再生し、しなやかで丈夫な血管をつくる
- ・**抗酸化力** 強い抗酸化力があり、細菌の繁殖を抑えるため、免疫力の向上をもたらす

これは、ケイ素の代表的な働きで、ほかにもケイ素は髪や肌、爪をしなやかにする効果など、非常に万能な働きをします。お腹の中の子供の成長も助け、**母子ともに健康維持の為に、体内では作る事のできないケイ素を取り入れることが、必要**になります。

ケイ素であれば、身体の隅々にまで吸収され、その効果を発揮してくれるのです。



## 【発達障害の改善】

代謝異常と腸内環境の正常化によって**発達障害は改善**

1. ケイ素は血管内皮の構成成分なので、それを補給することで傷んだ**血管の補修**が進み、しなやかさが保てる。
2. 人間の体温では溶けない血管内のプラークを融解するので、**動脈硬化の予防**になる。
3. ケイ素は植物や海藻の細胞壁の構成成分であり、人間が食べる**食物繊維の主成分**である。  
食物繊維は腸内細菌を活性化し、腸内環境を整える。**腸管免疫力を高める。**
4. ケイ素はリンパ節、肺、肝臓、卵巣、精巣、皮膚、骨、歯、目、毛髪、神経などの**主要な臓器の構成成分**である。  
ケイ素は酸化されない、変性しない物質。
5. **人の骨の33%はケイ素**であり、**カルシウムだけでは骨質はよくならない。**  
**皮膚でも同様で、コラーゲンを支えるのはケイ素**なので、補充しなければならない。
6. ケイ素は体内で神経細胞などに取り込まれると、微振動によって遺伝子を刺激し、**幹細胞を目覚めさせる可能性**がある  
特に**脳神経細胞を再生する可能性**がある。
7. ケイ素はマイナスに帯電しており、プラスに帯電している**重金属を引き付けて一緒に排せ**することができる。
8. メラトニン、セロトニンを分泌する脳の松果体の構成成分なので、**睡眠や精神安定にプラスの作用**がある。

脳や血液など体のトータル的な部分に影響があるケイ素だからこそ**発達障害だけでなく難病にも効果**があると考えます。



## ケイ素の効果

### 【白髪、薄毛など、髪の毛のトラブルも改善】

ケイ素は、コラーゲンを活性化させる効果があり、コラーゲンが活性化することで、血管が強くなり、血液が栄養素を身体の隅々まで運んでくれます。

身体の隅々まで届くことにより毛細血管も強くなるので、髪の毛を作る毛母細胞まで栄養素がきちんと届くのです。

そして、コラーゲンは皮膚や髪の毛の再生力を高めます。

たくさん栄養を受け取った頭皮の毛母細胞は、髪を作り出します。

生えている髪の毛穴や毛根に栄養を届けるので、髪の毛がしっかりしてきます。



活性酸素は、髪の毛の黒い成分を作ってくれる「メラノサイト」と呼ばれる細胞を攻撃します。

メラノサイトが活性酸素に攻撃されると、髪の毛が黒くなるために必要な「メラニン」が作れなくなってしまいます。

これが、**白髪の原因**です。更に、年齢を重ねるごとにメラノサイトの数は減少していきませんが、ケイ素を摂取することで毛細血管まで栄養素が行き届くようになると、**メラノサイトを活性化**します。

活性化したメラノサイトは、再びメラニンを作り出し「**黒くてしっかりした髪**」を生み出してくれるのです。



ある医師がケイ素を飲み続けていたところ、**白い髪の毛が根本から黒くなり**、年々髪が豊かになってきたといいます。

皮膚の状態も、よく美容番組で登場する肌年齢計測器ではかると、**実年齢より20歳以上若返っている**そうです。

周囲の人はもちろん、ご本人が一番びっくりしていて、**ケイ素の力は想像以上**だったと語っておられます。

年を取ると毛根の細胞が黒い色素メラノサイトの生産を止めてしまうが、ケイ素によってその細胞が復活し再び作り始めたのではないかと、**死んでいた毛根も再生し再び髪の毛が生えてきた**のではないかとその医師は語っています。

毛根が復活しただけでなく、おそらく頭皮の血流もよくなり、毛髪の成長を促進！！

薄毛や脱毛は多くの人の悩みの種ですが、俗に「**毛生え薬を作ったらノーベル賞もの**」と言いますが、

**ケイ素はノーベル賞の可能性**があるかもしれませんね。

### 【消臭効果～加齢臭・体臭～】

ケイ素の効果・効能のひとつとして「**消臭効果**」があります。

#### \*ケイ素の静菌作用

人の身体の新オイは、基本的に自身の汗と脂が混ざることにより、細菌が繁殖してしまい臭いが発生します。

臭いが気になる部分に、ケイ素をスプレーすると、臭いの元となる細菌の発生・繁殖を抑えてくれます。

#### \*ケイ素の浸透性

ケイ素はその浸透性の高さから腸内で吸収されやすく、**血管の悪玉コレステロールや脂肪を吸着し、血液をサラサラな状態**にしてくれます。

汗は元々血液由来になりますので、血液がサラサラで健康な状態になると、汗も脂っぽくない汗になります。

そしてさらに、ケイ素は老廃物の排泄を促すことができます。

**体臭**というのは、**体内環境にかなり影響**されますので身体の中からきれいになれることは、とても大事ですね！！



## ケイ素の効果

### 【EDへの効果】

加齢と共に、新陳代謝が鈍っていくことによって男性機能は残念ながら年々衰えていってしまいます。

男性機能が衰える要因として、活性酸素により血液の巡りを悪くさせる為、活性酸素の増加があげられています。

勃起不全（ED）になってしまう原因としては**ストレス**をためていたり、**不規則な食事**を続けていたり、**運動不足**だったり**過度の飲酒**、**喫煙**などの、日常生活パターンによって起こることが多いのです。



また、心臓や血管の病気、高血圧、糖尿病などの生活習慣病のほか、睡眠薬・抗うつ剤などの中枢神経や末梢神経に作用する薬剤や循環器に作用する薬剤、消化管に作用する薬剤等の服用が原因になることもあります。

「男性機能」と「血行」はとても深いつながりがあり、**ケイ素の優れた血行改善力が精力剤として注目**されています。

水溶性ケイ素は血管・血液へすばやく浸透し、さらに優れた浄化能力により血管中の壁に付いた悪玉コレステロール、過酸化脂質を除去し、ドロドロ化した血流を改善し、血管を強くしなやかにします。

**血流を良くすることが、EDの治療には最も効果的**です。

ケイ素には**副作用**がありません。

安心・安全に**男性機能の改善**が出来るのです！！

### 【うつ病への効果】

うつ病や統合失調症の原因は、過度のストレスや、強い悲しみ、不安、虚しさなど、主に憂鬱な気分や無気力が特徴。

うつ病はただの気の持ちようで起こることなく**過度のストレス**によって**セロトニン**や**ノルアドレナリン**などの脳の神経伝達物質の働きが鈍って起こるとされています。

セロトニンは、人間の精神面に大きな影響を与えて、心身の安定や心の安らぎに関与することから、「**幸せホルモン**」と呼ばれています。

**セロトニンが不足**すると、うつ病に陥りやすいと言われています。

ケイ素には、この**セロトニン**に作用して**感情の安定**や**抗うつ効果**などを発揮する効果があります。

ケイ素を摂取することで**脳内の活性酸素を除去し、脳疾患の予防**につながる可能性があります。



### 【花粉症改善】

花粉症の対策には腸内環境を整えるといいということは有名です。

アレルギー性の鼻炎や花粉症などは、免疫力が正常に働いていると症状は治まります。

ケイ素は、新たな免疫細胞の生産を助ける役割があり、重要な免疫組織である腸管

（主に小腸や大腸）の材料にもなり、強い抗酸化力があるため細菌の繁殖を抑え、殺菌力、静菌力、浄化力につながり、結果として免疫力の向上！！

また、**ケイ素には「人間が本来持っている自然健康状態に戻す」という性質**があります。



## ケイ素の治療例



### 『1ヶ月でアトピーの症状が改善』

生後6ヶ月でアトピーと診断されて以降、抗アレルギー薬とステロイド剤を使用していた。薬を使用していたが、なかなか改善もなく、**ステロイド剤は副作用がある**ので、このまま幼児に使っていて大丈夫なのだろうかと心配になり、細胞修復や活性、保湿に効果的だと勧められたケイ素を使用。

使い方は、とても簡単で、飲み物に入れたり、お風呂上りに水で希釈して作ったケイ素水を身体にスプレーしていました。また、かゆみが気になるときに、都度その箇所にスプレーしていました。

続けること1ヶ月・・・

子供の肌の状態は、つるつとしてきて、以前とは見違えるほど綺麗になり、子供ならではの、綺麗な肌に戻りました。

### 『肌がツルツルになった』

顔の肌で悩んでいた30代の女性。

ケイ素を顔にスプレーしたら、肌がツルツルしてきれいになった。

### 『大動脈瘤が2ヶ月で半分に縮小』

腹部大動脈瘤だった帥代の男性が、ケイ素を摂取して2ヶ月目ころから、かなり症状の改善が認められた。今は日常生活を楽しめるまでになっている。動脈瘤の直径は4センチくらいだったが、かなり縮小している。さらに、血圧が安定し、髪の毛が新しく生えてきた。男性機能も元気になったという。

### 『帯状疱疹が2, 3日で完治』

1歳半の男の子に帯状疱疹があったので、ケイ素を薄く塗ったところ、2, 3日で完治。

### 『肌や便秘の悩みが解消』

40代後半の女性だが、肌や便秘で悩んでいた。

ケイ素を始めたら、肌がつやつやになった、疲れが取れた、便秘がよくなった、しみが薄くなった。

### 『統合失調症が2, 3ヶ月で改善しだした』

統合失調症と診断され、その後、薬を服用するも改善せず症状は進行するばかり。仕事にも支障が出ていた。ケイ素を始めると、2, 3ヶ月で状態は安定し、仕事にも普通に出来るようになり、スポーツも楽しめるまでになった。統合失調症は精神科医でさえ困難な病だが、ケイ素で脳神経の再生がうまくいけば、回復。

### 『2, 3週間でしみ、ソバカスが消えた』

しみ、ソバカスで悩んでいた女性。ケイ素を顔にスプレーしていたら、2, 3週間でしみ、ソバカスが消えた。

### 『32年間、鬱だったのが改善』

32年間、鬱だった娘さんに父親がケイ素を色々な食品に加えて摂取させたところ、症状が改善した。父親は、娘さんは嫁に行けないと思っていたが、娘さん本人は嫁に行けるというようになった。

以上のような、効果・改善例などはケイ素のもつ力のほんの一部です。

ご自身で是非一度調べてみてください。

もっと詳しく知りたい方は『[ケイ素の力.com](http://ケイ素の力.com)』を読んでみてください。





## 他とは違うケイ素

還元精錬法を活用し、水晶と炭を一緒にして2400°Cに加熱し、炭酸ガスとして酸素と炭素を逃がすことで生成された、純度99.9%のクリスタル・シリカを、天孫降臨の地である霧島連邦高千穂の麓に建立された霧島神宮の敷地内の深層地下144mの岩盤から汲み出された「始元水」の中で醸成されたものが、今回の水溶性ケイ素濃縮溶液です！！

**ケイ素は水溶性でなくては効果がありません。**

分子レベルで細かくなければ、全身のすみずみの細胞に届き、細胞の材料となり、抗酸化力を発揮することはありません。

さらに他と大きな違い。

・世界8カ国特許の **特殊加工**

加圧しながら特殊な鉱石と接触させることにより、分子運動を活発化したエネルギーの高い物質に変化させる技術

「低分子化」＝「ピコ化」されることにより、分子運動の自由度が高まりエネルギーが活性化すると共に低分子化により細胞内に浸透しやすく、摂取するだけで酸化も防げる、**スーパーケイ素**となっています。

**特殊加工** 技術によって作られたケイ素は、舌下吸収も可能ですが、水素吸入時にバブリングボトルに5～10滴入れ、水素吸入と同様に、鼻腔からの粘膜吸収が可能で、体内バリアの影響を受けにくく直接血液へ取り込むことができるため、吸収率や即効性に優れています！！（健康な方1日1回：舌下5～10滴、バブリングボトルに5～10滴の両方が理想）水素だけでなかなか改善スピードが上がらない方や、さらに効果を高めたい方、癌などの重い疾患の方へに有効性があると、大阪府立の先生からもお墨付きのケイ素です。

（病気の方1日3回：舌下5～10滴、バブリングボトルに5～10滴の両方が理想）

## 水素とケイ素の相乗効果

あれ？水素と同じでは・・・？と思っている方も多いと思います。

確かにアンチエイジング・生活習慣病の改善など、その他期待できる効果などかなり共通点が多いです。

しかし、体の仕組みが分かれば、**水素にケイ素をプラスすることで相乗効果**があがることわかるはずです。

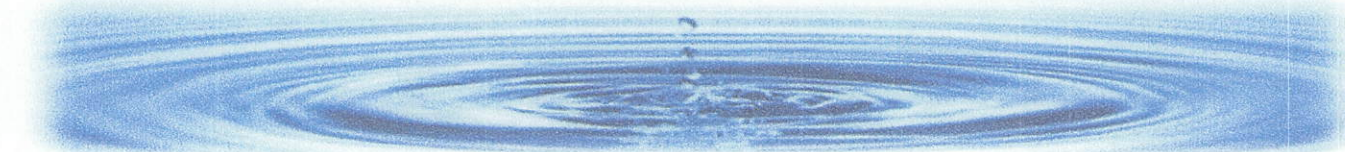
それとともに、**水素とケイ素のそれぞれの役割の違い**にも気付くはずです。

体の中で起こる反応

水素＋ミネラル(ケイ素)＋ビタミン＝酵素反応が起こる→ミトコンドリアが活性化＝腸内細菌が元気になる＋食物繊維＝体に必要量の水素を作れる様になる！！

上記の体内で起こる反応をみれば一目瞭然ですね。体の細胞を活性化させるのにはまず水素が根底に必要となります。水素吸入で体に必要な水素を取り入れ、活性酸素を除去し、体を酸化から守り、さらに**体内では生成されず、加齢に伴い減り続けているケイ素を摂取することによって**、身体によい栄養をケイ素が繋ぎ止め体の組織そのものを構成する部分に力を発揮します。

どちらも違ったアプローチで、体の健康、美容などに効果を発揮してくれるので、**相乗効果**があがるということです！！



## ケイ素有効的な使い方

### ・美容効果を高める使い方

- \* 洗顔石鹸に混ぜる
- \* 美容液や化粧水に混ぜる
- \* 保湿クリームに混ぜる
- \* 直接肌に吹きかけて保湿を高める
- \* お風呂に入れて全身に浸透させる

### ・薄毛・脱毛・白髪などの育毛効果を高める使い方

- \* シャンプーに混ぜる
- \* トリートメントに混ぜる
- \* 頭皮にスプレーし頭皮マッサージをする
- \* 髪の毛にスプレーしブラッシングする

### ・消臭効果を高める使い方

- \* 歯磨き後にケイ素で歯を磨き口臭を予防
- \* ワキにスプレーしてワキガ予防
- \* 耳の後ろや小鼻に直接塗って加齢臭予防
- \* ペットにスプレーしてブラッシングする

### ・食物や植物への使い方

- \* 野菜や果物を洗浄する水に混ぜて使う  
有害物質や不純物を除去する効果があるので、野菜や果物に付着した農薬を除去することが出来る
- \* 観葉植物や花瓶にかけた花などの、植物の栄養素としてあたえる

### ・目の疾患に効果的な使い方

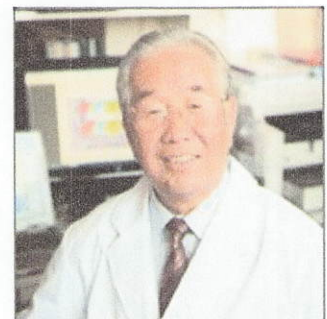
- \* 点眼する（毎日1～2滴程度 ㊟コンタクト使用時は使用しないで下さい。）  
白内障・緑内障・飛蚊症の他、目の疾患の改善効果を高めることが出来る

## 清水教永教授 プロフィール

大阪府立大学名誉教授 清水教永先生

1949年生まれ。一般社団法人 生活健康学研究所 理事長

生活健康学の第一人者で、日常生活における健康の維持増進に有用な処方療法や、生活習慣病予防のための快適環境のあり方について医学的な面から研究を行っている。専門は健康医科学、環境適応の生理衛生学。



大阪府立大学  
清水 教永 教授

## ・臓器別必要栄養素

人体の各臓器・器官はそれぞれ異なった栄養素が必要です

目	珪素、亜鉛、ルテイン、β-カロテン、銅、ビタミンC、ビタミンE、クロム
骨	珪素、マグネシウム、ビタミンB12、ビタミンE、ビタミンK、フッ素、葉酸、ホウ酸、カルシウム、ビタミンD、セレン(セレンウム)、銅、マンガン、コラーゲン、ニコチン酸アシド、リン
胸腺	珪素、カルシウム、マグネシウム、亜鉛、セレン(セレンウム)、鉄、銅、ビタミンC、ビタミンB6、ビタミンB12
神経	珪素、ナトリウム、亜鉛、マグネシウム、セレン(セレンウム)、カルシウム、ビタミンE、ビタミンB1、ビタミンB6、ビタミンB12
皮膚	珪素、ビタミンC、ビタミンE、亜鉛、ナトリウム、コラーゲン、ナイアシン、ビオチン、ビタミンB12、β-カロテン、エラスチン、ビタミンA、パラアミノ安息香酸、DHA
毛	珪素、カルシウム、ナトリウム、マグネシウム、亜鉛、パントテン酸、ビオチン、ビタミンE、ビタミンB1、ビタミンB2
歯・爪	珪素、マグネシウム、鉄、ビタミンE、ビオチン、カルシウム、亜鉛、フッ素
膵臓	珪素、カルシウム、マグネシウム、カリウム、亜鉛、タンパク質分解酵素、ビタミンB6、ビタミンA、セレン(セレンウム)、硫黄、ヨード、ナトリウム、脂肪の分解酵素
脾臓	珪素、マグネシウム、カリウム、ビタミンC、ビタミンA、セレン(セレンウム)、ビタミンK、ビタミンB1、ビタミンB2、硫黄、亜鉛
肺臓	珪素、セレン(セレンウム)、ビタミンC、ビタミンB6、ビタミンE、亜鉛、カルシウム、マグネシウム、鉄、銅
胃腸	珪素、コラーゲン、コエンザイム、ビタミンA、ビタミンE、ビタミンU、リノール酸、EPA、ビタミンB1、ビタミンB6、ナトリウム、マグネシウム、ジアスターゼ、イソチアネート
筋肉	珪素、アクチン、ビタミンC、ビタミンE、プロテイン、蛋白、ミオシン、パントテン酸、ビタミンB6、ビタミンB12、カルシウム、マグネシウム、アミノ酸
脳	珪素、ビタミンC、ビタミンB1、ビタミンB2、マンガン、アセチルコリン、セレン(セレンウム)、γ-リノレン酸、ビタミンB12、ビタミンB6、ビタミンE、ビタミンB17、アミノ酸、オレイン酸、コリン
心臓	珪素、マグネシウム、β-カロテン、ビタミンE、亜鉛、鉄、セレン(セレンウム)、EPA、DHA、葉酸、カロチノイド、カリウム、ビタミンC、タウリン、リノール酸
肝臓	珪素、葉酸、セレン(セレンウム)、ビタミンB1、ビタミンA、亜鉛、硫黄、モリブデン、クルクミン、グルタチオン、ビタミンB6、ビタミンC、ビタミンE、ナトリウム、アミノ酸、フラボノイド、グリチルリチン
腎臓	珪素、マグネシウム、カリウム、ビタミンB6、亜鉛、硫黄、EPA、DHA、グリニシン、ビタミンC、ビタミンE、セレン(セレンウム)、ビタミンA、ナトリウム、モリブデン、食物繊維
血管	珪素、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、カリウム、EPA、DHA、ポリフェノール、ビタミンC、ビタミンE、ビタミンB1、セレン(セレンウム)、タウリン、コリン、大豆サポニン
内臓六腑	珪素、カリウム、ナトリウム、ビタミンA、ビタミンB1、ビタミンB6、ビタミンE
血液	珪素、β-カロテン、マグネシウム、セレン(セレンウム)、銅、葉酸、鉄、ビタミンA、ビタミンB6、ビタミンC、ビタミンD、ビタミンE
リンパ腺	珪素、カルシウム、マグネシウム、亜鉛、セレン(セレンウム)、ビタミンB1、ビタミンB6、ビタミンB12